

巡る通学路

— 子供の居場所づくりの物語 —

食の居場所



手芸が趣味の単身高齢者は、子供たちに創作活動の場を開放。

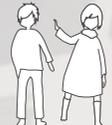
アウトドア好きな福田さん

土間キッチン
食テラス
食庭

賑の居場所

賑わいの橋

音の居場所



文化・芸術活動が盛んな杉並区で、音楽家として活動する夫婦は、音楽スタジオを開放する。

音楽家夫婦の鈴木さん

奏でる広場

みんなのスタジオ

聴く広場

創の居場所



アウトドア好きな賑やかな家族は、“食”をテーマに居場所を開放する。

単身高齢者の池田さん

工作のへや

創る庭

まちのギャラリー

佇の居場所

佇まいの橋

本のピロティ

知の居場所



子育てを終えた夫婦は、趣味の読書で、子供の居場所をつくる。

子育てを終えた杉本さん

住民の趣味や個性を活かした異なるテーマを持つ子供の居場所を併用する住宅。
使われていない川の上の空間には居場所となる橋を架ける。
子供の居場所を併用する住宅がまちの人々の地域貢献意欲が広がる物語のきっかけとなり、
放課後の子供たちはまちを巡り、豊かな活動や人との出会いの物語が続いていく。

Background

- 子供の育成環境の貧弱化 -

今日の日本の子供の育成環境は、社会環境や生活様式の変化の影響を受け、空間・時間・仲間が減少している。多くの問題が複合的に絡み合い、育成環境が貧弱化し、子供の育ちに重大な影響を及ぼしていると考えられる。



- SDGs 問題解決に向けて -

子供の育成環境が貧弱化している課題を解決に導く上で、複合的に絡み合った問題の1つ1つに目を向けた。子供の問題を大人の問題としても捉え、子供を育てる親だけではなく、周りの大人の子育てへの理解や協力体制の構築が必要不可欠であると考えた。本提案により、8つのSDGs達成目標を、段階的に解決することを目指す。



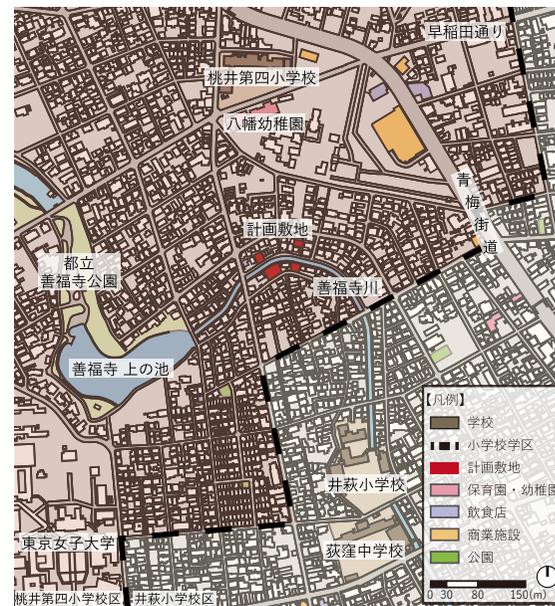
Site

- 児童館の再編を進める杉並区 -

杉並区では、施設の老朽化や、ニーズの多様化などを理由に、児童館の再編を進めている。この再編に対し、区民からは、小学生の居場所や、多世代交流の機会を失うことに懸念の声が上がっている。

- 杉並区善福寺 -

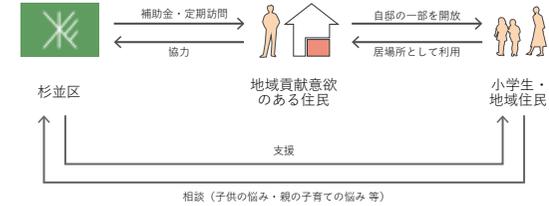
対象とする敷地の選定は、児童にとっての日常的な通学路内であり、「まち中で使われていない土地を利用すること」「多くの地域住民を引き込むこと」を条件に選定し、未活用の空き地や駐車場を4敷地選定した。対象敷地は、桃井第四小学校校区に位置するが、井萩小学校の児童も引き込み、学区の境界を超えた交流が生まれると考えた。また、現地調査の際に見かけた地域資源ともいえる善福寺川沿いを散歩する地域住民も引き込むことができると考えた。



Proposal

- 住民主導の居場所づくり -

子供の居場所を併用した住宅を提案した。地域貢献意欲のある住民が自邸の一部をまちに開くことで、まち全体で子供を育てる環境の構築を目指した。



- 通学路内に居場所を点在させる -



限られた空間・時間の中で小学生の通学路内に居場所を点在させ、小学生が寄り道をするように下校することで、まちを巡り地域コミュニティを気づける。

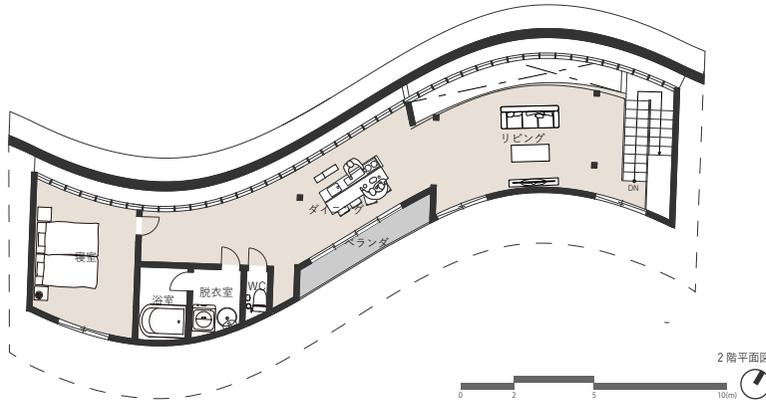
物語



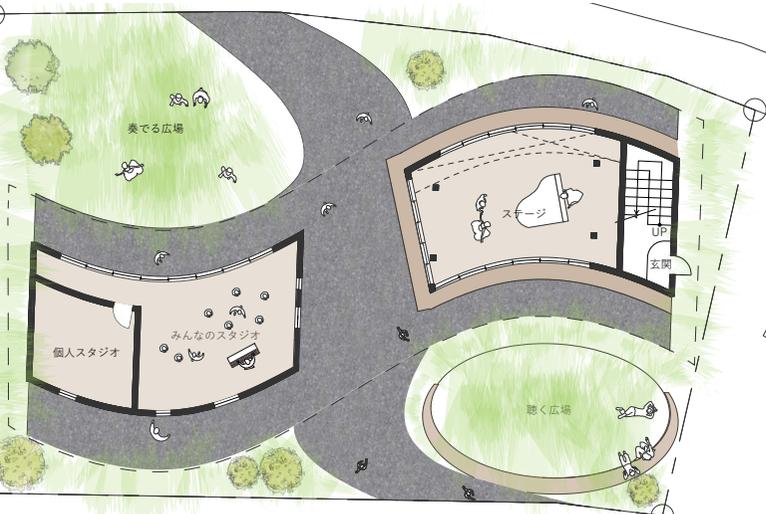
音楽家夫婦の鈴木さん



文化・芸術活動が盛んな杉並区で、音楽家として活動する夫婦の鈴木さんが、自身の音楽活動をまちに知ってもらおうと、子供たちに音楽スタジオを開き、このまちの子供の居場所づくりの物語が始まる。鈴木さん夫婦の職業を活かした音楽スタジオは、小学生にとって“音”の居場所となる。



2階平面図



1階平面図 S=1:200



鈴木さんちの音楽が川や原の清流とももに聞こえてきて、川沿いに人が集まる



ステージでは、音楽家が演奏する音楽を楽しむことができる

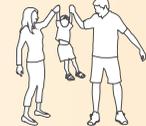


鈴木さんがまちに開いた音楽スタジオは、奏でる広場と一体となり、内外で音楽を楽しむ

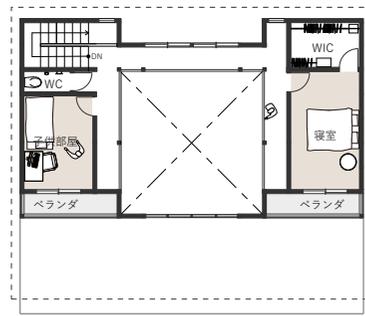
物語



アウトドア好きの福田さん家族



鈴木さんの様子を見て、福田さん家族は“食”の居場所を開く。鈴木さんちと福田さんちの間には、賑わいの橋が架かり、それぞれの居場所がつながる。



2階平面図



1階平面図



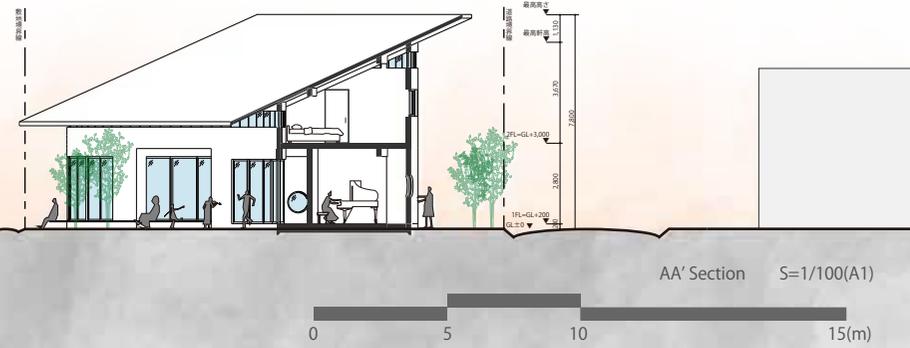
食卓を庭に上出し、ものを食べながら、賑わいの場や向かいが鈴木さんちの活動を見る



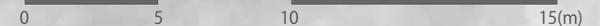
放課後、お腹を空かせた小学生が宿題をしながら寄り道して、おやつをもらう



食庭や大きな開口の先の土間キッチンからの美味しいにおいに誘われて小学生が集まる



AA' Section S=1/100(A1)



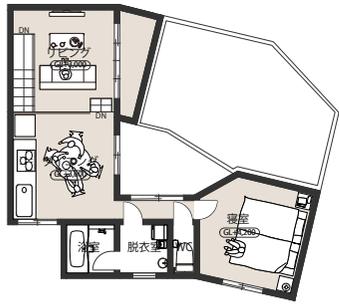
物語



読書が趣味 の杉本さん夫婦



地域貢献意欲が広がり、子育てを終えた杉本さん夫婦は、趣味の読書を活かし、本のへやを開放する。子供たちは本を通して、見て、聞いて、話して、知識を増やす“知”の居場所とする。



2階平面図



扉を開けると子供たちと一緒に読書を楽しめる杉本さんのリビング



床から天井までの本棚や、階段の本棚で多くの本に囲まれる本のへや



通り抜けたり、本を読んだり、多様な活動ができる杉本さん家の本のピロティ



1階平面図



杉本さんち



善福寺川

物語



手芸が趣味 の池田さん



単身高齢者の池田さんは、趣味の手芸を活かして、子供たちと創作活動を行い、子供たちから元気をもらう。多くのものに触れ、想像力を養う“創”居場所となり、杉本さんちと池田さんちは、佇まいの橋でつながり、子供たちは活動を広げていく。



2階平面図



創る庭と内外一体となり、創作活動を行う池田さん家の工作の部屋



1階平面図

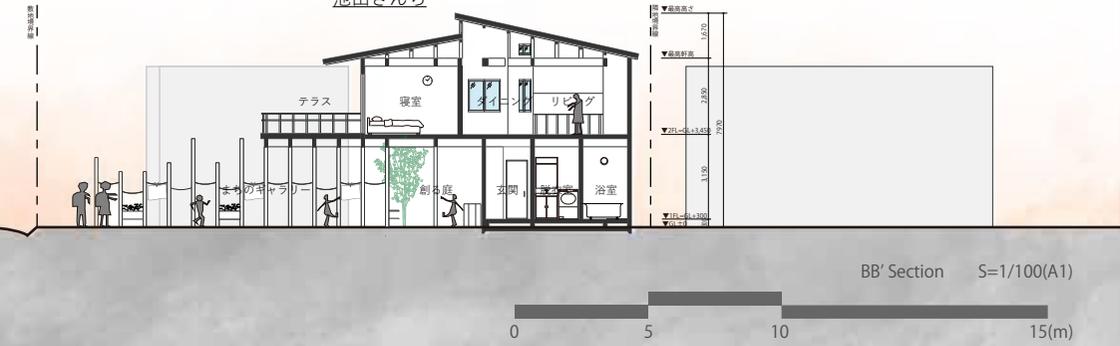


まちのギャラリーから見られると広がる創る庭



子供たちや池田さんの創作物が飾られるまちのギャラリーは奥へと子供たちや地域住民を引っ込み

池田さんち



BB' Section S=1/100(A1)

